



新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JA全農青果センター(株) 神奈川センター	階数	地上2F
建設地	神奈川県平塚市東八幡5丁目1005	構造	S造
用途地域	工業専用地域、第4種高度地区、防	平均居住人員	270 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年8月 予定	評価の実施日	2010年12月15日
敷地面積	46,127 m ²	作成者	(株)JA設計
建築面積	18,954 m ²	確認日	2010年12月15日
延床面積	36,157 m ²	確認者	(株)JA設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項	
総合	敷地特性や室用途に配慮し、環境配慮項目に沿って熱負荷やランニングコスト低減に繋がる適材適所の材料やシステムを用いた建物計画とする。
その他	0
Q1 室内環境	・ライトシェルフを設け、昼光利用の積極的利用に配慮する。 ・照明点滅区分を細かく分け、リモコン制御とすることで、高レベルな照明制御とすることに配慮する。
Q2 サービス性能	・リフレッシュルームや喫煙室を完備し、オフィスの快適性に配慮する。 ・耐久性の高い配管を使用することで、長寿命化を図り、維持管理に配慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	・既存の樹木を保存することで、人々の記憶の継承と地球環境の保護に配慮する。 ・道路や車両との緩衝帯として緑化を多く施し、地球環境に配慮する。
LR1 エネルギー	・高効率な照明器具を採用し、設備システムの高効率化に配慮する。 ・ライトシェルフを採用し、自然エネルギーの有効利用に配慮する。
LR2 資源・マテリアル	・躯体と内装材の分離が容易で、かつOAフロア等のユニット部材を使用して資源の再利用に配慮する。 ・節水コマ付水栓や節水型器具等を用いることで上水利用量の削減に貢献する。 ・ハロン消火剤を使用しないことに配慮する。
LR3 敷地外環境	・燃焼機器を使わず、大気汚染防止に配慮する。 ・十分な駐車スペースを確保し、敷地外への交通負荷抑制に配慮する。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい